

1 目指す学校

教育目標	日本国憲法・教育基本法及び学校教育法を基盤として、学習指導要領の趣旨を踏まえ、勉学と勤労の両立を図り、次の目標を掲げて教育を推進する。	真理	真理を探究し、知性を高める。
		勤労	勤労を愛し、自主協調の精神を培う。
		友愛	友愛の精神を培い、個性を伸ばす。
スクール・ミッション	「真理」「勤労」「友愛」を教育目標に掲げ、勉学と勤労の両立を図ります。基礎学力の定着、生活習慣の確立に加えて、特別活動や地域交流を通じて主体性を養い他者と協力しながら課題解決する大切さを理解し、自己肯定感を高めるとともに、コミュニケーション力やチャレンジ精神を育成します。		
この教育目標とスクールミッションを達成するために、次の3つのスクールポリシーで臨む。			
グラデュエーション・ポリシー	① 基礎学力を身につけ、自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間を育成します。 ② 自ら課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぼうとする人間を育成します。 ③ 地域社会の一員として、地域社会に貢献しようとする志高い人間を育成します。		
カリキュラム・ポリシー	① 落ち着いた学習環境で、働きながら、基礎学力の定着と学力向上を目指します。 ② 総合的な探究の時間とキャリア教育の連携を図り、多様な進路希望を実現できる学校を目指します。 ③ 生徒の主体的な活動の場として学校行事や部活動等を捉え、豊かな人間性を育成できる学校を目指します。 ④ 「分かる」授業を大切に、学ぶ楽しさを理解できる学校を目指します。		
アドミッション・ポリシー	① 学び直しを希望し、授業を大切にして、基礎的な学力を身に付けようとする生徒を求めています。 ② 授業や行事、部活動等学校の教育活動を大切にし、「がんばる」生徒を求めています。 ③ 社会に出るために必要な力を身に付けようとする生徒を求めています。 ④ 他人を思いやり、社会に貢献しようとする生徒を求めています。 ⑤ 自分自身の将来について希望をもち、それを実現しようと努力する生徒を求めています。 ⑥ 就労について理解を深め、学業と両立できる生徒を求めています。		

2 中期的目標とその達成に向けた方策

「入って良かったと思える学校」を目指して、落ち着いた学習環境のもと、学力向上・進路実現・人間性を磨く教育を推進するために、以下の中期目標と方策を定める。

中期目標	(1)	落ち着いた学習環境を整え、生徒一人一人の基礎学力の定着と学力向上を目指す。	
	(2)	自己有用感を高めるとともに、社会性を身に付けさせながら多様な生徒の進路実現を図る。	
	(3)	生徒指導指提要に基づき、生徒の主体性を育みながら体力及び健康の増進を図る。	
	(4)	地域、近隣学校、関係機関および家庭との連携を深め、組織的な学校運営を推進する。	
方策	①	「わかる」「楽しい」「ていねい」な授業に向けた授業改善と工夫	学習指導
	②	授業規律の確保と生徒指導指提要に基づいた生活指導の充実	学習指導・生活指導
	③	「指導と評価の一体化」の実施による授業改善の推進	学習指導
	④	互いを認め合うことができる人権尊重教育の推進	学習指導・生活指導
	⑤	組織的に中途退学未然防止と転入学者の支援	学習指導・生活指導
	⑥	学校安全計画に基づいた安全教育及び防災教育の推進	生活指導・特別活動
	⑦	自殺防止教育の組織的・計画的な取り組みと一層の推進。	生活指導・健康作り
	⑧	外部機関と連携を図り、4年間の計画的・組織的な進路指導の充実	進路指導
	⑨	学校行事や部活動の活性化と国際理解教育の推進	生活指導・特別活動
	⑩	組織的な広報活動の充実と募集対策の工夫・充実	広報活動・募集活動
	⑪	学校運営連絡協議会の学校評価を活用した学校改善と特色ある教育活動の実践	学校運営
	⑫	企画調整会議をはじめ、各分掌・各学年・各教科・各委員会の活性化の推進	学校運営
	⑬	組織的OJTの推進による人材育成と校内組織の活性化	学校運営
	⑭	経営企画室との連携推進と自律経営予算の有効活用の推進	学校運営

⑮

安心・安全な学校生活の保障（交通安全対策、熱中症対策、SNS 指導、人権教育・いじめ防止など）

3 今年度における取組目標とその達成に向けた具体的方策

様々な教育活動を通して自信を付け、社会性を身に付け、進路目標をもって、自己実現を図っていく。

(1) 重点目標と具体的方策

重点目標	(1)	「分かる」授業の充実
	(2)	授業規律の確保と生徒指導提要に基づいた生活指導の充実
	(3)	総合的な探究の時間とキャリア教育の連携を図り、4年間の計画的・組織的な進路指導の充実
	(4)	中途退学者の未然防止の推進
	(5)	学校PR活動の強化
具体的方策	①	生徒の実態に合った授業を展開し、生徒に「分かる」楽しさを理解させる。
	②	面倒見の良い授業を実施するために、授業前、個別指導期間、長期休業中の補習等を充実させる。
	③	指導と評価の一体化を進め、教員の指導改善を行う。
	④	生徒自ら校則の在り方を主体的に考え、主体性と責任感に基づく規範意識を育成する。
	⑤	生徒一人一人の生活背景を踏まえつつ、登校・時間管理・学習態度に関する指導を積み重ね、基本的な生活習慣の確立を目指す。
	⑥	各教科の学習内容に進路や社会的テーマを関連付け、生徒が将来を見据えて主体的に探究する学習を充実させる。
	⑦	探究活動の成果を発表や振り返りにつなげ、教科で身に付けた力を自らの進路選択に生かす意識を高める。
	⑧	探究活動と面談を連動させ、生徒が自身の適性や課題を整理し、主体的に進路を考えられるよう支援する。
	⑨	面談週間や日常的な声掛けを通じて生徒一人一人の状況を把握し、課題の早期発見・早期対応を組織的に行う。
	⑩	教育相談委員会を中心に、関係教職員・スクールカウンセラーが連携し、継続的な支援体制を構築する。
	⑪	定期的に家庭へ成績や学校生活の状況を伝え、保護者との共通理解を図ることで、中途退学の未然防止につなげる。
	⑫	転・編入学者を含む全ての生徒が安心して学校生活を送れるよう、個別の学習支援や生活面でのきめ細かな指導を行い、帰属意識の向上を図る。
	⑬	教務部と生徒募集委員会を中心に、授業公開・学校説明会等の広報活動を計画的かつ組織的に実施する。
	⑭	随時学校見学を受け付けるとともに、近隣中学校への訪問を継続し、本校の教育内容や特色を直接発信する。
	⑮	学校案内やホームページを活用し、生徒の活動の様子や学校の魅力を積極的に発信することで、学校理解の促進を図る。
	⑯	自習室等の全定での総合的・組織的活用

(2) 数値目標

令和8年度の数値目標		7年度←	6年度 ←	5年度 ←	4年度	
①	生徒の授業満足度	95%以上	82.0% ←	86.0% ←	91.6% ←	89.5%
②	中途退学者	0名以下	11名 ←	6名 ←	4名 ←	4名
	転入学者		8名 ←	11名 ←	5名 ←	5名
③	進路決定率	95%以上	100%←	87%←	91%←	94%
④	部活動 全国大会出場	1部以上	0部 ←	0部 ←	0部 ←	1部
⑤	一次入試応募倍率	1.0倍以上	0.30倍 ←	0.37倍 ←	0.57倍 ←	0.37倍